

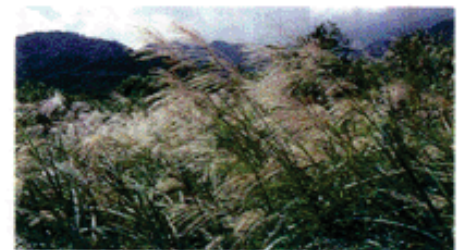
ビオトープには いろいろなタイプがある



川の砂や小石の多い場所 イカルチドリやコアジサシといった鳥たちが卵を産みにくる。



小川 メダカやドジョウ、トンボのヤコやホタルの幼虫などがいる。



スキの草原 秋の七草のオミナエシやキキョウなども生え、バッタなどがくらしている。



ヨシ原 川边でよく見られるヨシ原には、オオヨシキリなどの鳥がやってくる。



落葉広葉樹林 ブナやミズナラの林に、シカやサル、キツネ、タヌキ、クマなどがいる。



雑木林 コナラやクヌギの林に、カブトムシやキツツキの仲間のコゲラなどがくらす。



干がた シギやチドリなどの渡り鳥が、旅の途中に寄ってエサを食ったり、休んだりする。



池や沼 カエル、ゲンゴロウ、タニシ、フナなどがくらし、それらをカイツブリやサギが食べる。



神社やお寺にある林 シイカシの大木に、フクロウの仲間のアオバズクがくらしている。

日本は南北に長いので南と北では気候がずいぶん違う。西表島(沖縄県)には、暑いところが好きなマングローブ林のビオトープがあるし、北海道には、寒いところが好きなトドマツ林のビオトープがあるといったくあいじゃ。

日本には、いろんな種類のビオトープがたくさんあって、それぞれのビオトープに合った生きものがたくさんくらしていた。けど、人間は、広い範囲にわたってビオトープをこわしてしまったんじや。たとえば干がたは昭和20年とくらべて、その3分の1以上がなくなってしまうんじやよ。

海辺にあるビオトープもあれば、数千メートルの山のとっぺんのビオトープもある。ビオトープといってもぜんぜん違うんだね。